

[学年研究授業①]

授業者： K 先生 3年B組 数学

単元名： 関数 $y=ax^2$

本時の目標： $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。

(時間は時刻)

8:40 テンション低く淡々と授業に入る。前時までの振り返り、めあての確認、本時の課題の確認を終えたら、グループに下ろす。気持ちいいほどあっさりしている。余計がない。あるグループの女の子から「意味分かん」とでたが、教師はすぐに対応しない。我慢どころである。自分たちで「分かり合う。」ことへ促す。教師が落ち着いている。静かに見守っている。しばらく沈黙の時間である。




8:50 グループへ 5分沈黙(各々やっている) → グループでぼそぼそ → 他のグループへ確認。




写真①、グループにしても最初の5分間は各々でやっていた、教室が沈黙する。写真②、しばらくして各グループでぼそぼそと対話が交わされる。写真③、できたグループの女の子が他のグループへ確認へ行った「意味分かん」と発言していた子である。


9:00 【基本問題の共有】
生徒も教師もあっさりやる。時間をかけすぎないが肝心。



【つながる】
気にかけていた子がつながった。しかも教師のケアの後にである。数学が苦手なんだろう。最初からあきらめかけていた様子が見えたが「捨てるのはいなかった。」のである。教師のケアのタイミングが絶妙であった。





9:23 【ジャンプ問題の共有】



写真下、教師は、生徒の発表を、整理し皆に確認した。あっさりやるところがいい。

【2枚の写真】 聴き合う。学び合う。訊きあう。支え合う。
生徒たちが慣れてきたのだろうか、グループ内での対話がとても自然である。さらに聴き合うのである。発表者に注がれる視線である。いろいろあるけど何とかやっつけている。結果は求めない。学び合い支え合う授業・教室・学校づくりにみんなで挑戦してほしい。焦らなくていい、とにかく教師も生徒も前向きにやっていきたい。

K先生お疲れさんでした。国頭中の校内で多くの先生方の授業を見ることができただけでも幸せなことです。教師は実践から学ぶ(ケースメソッド)、本時の先生のテンション、ケアのタイミング、よかったです。「学び合い」が滞った時、課題にもどし「分からない」を整理して方向を示してあげるといいですね。

[学年研究授業②]

授業者 : T 先生 2年B組 保健体育

単元名 : 自然災害「沖縄大震災に備えて」

本時の目標 : 地震や津波の怖さを知り、災害時における命を守る行動について考える。

(時間は時刻)

10:40 近づきつつある台風の話から入る。今日は自然災害についての話である。リアルタイムな導入のきっかけである。10:45 本時のめあてを確認したら、写真④、東北震災時の地震の時の映像と津波の映像を視聴する。写真⑤、食い入るようにみる生徒達。「わお〜」「こんななるの。」「え〜っ」。改めてみることの大切さである。(映像資料はインターネットより)



11:00 教科書 P32 沖縄の自然災害について教科書で確認する。

11:02 グループへ。ワークシート配布

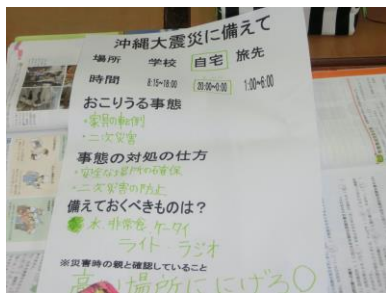
個人で教科書から調べて記入する。

授業者「分からなかったら友達に訊く」を数回促す。みんな黙々とやる。「調べたことを記入する。」なので「学び合い」には発展しないが、ちょっとしたことで、依存できる空気をつくっておく事は大切である。気軽に「訊き合い」たい。



11:16 『沖縄大震災に備えて』ワークシートをグループに1枚配布する。シートが1枚なので、みんなの意見をまとめる「話し合い」活動になる。

各グループで、「どこで」「何時ごろ」を設定し対応を考える。どのグループも書きまとめているのがほとんど女子であったことがちょっと気になる。



11:24 発表全グループ



【2枚の写真】

授業が始まってから教科書を取りに来た。ほんとに基本的な学習規律である。「あたり前」の難しさでもあるが下の写真のロッカーや棚の上など、気にかけておきたいものである。

崩れる時は基本から、基本が崩れると1からのやり直しになる。

担任との連携が鍵



授業終末。各グループの発表である。上の写真は中間の発表に聴き入る仲間達である。あと少しである。「みんなで聴いてあげよう」共通実践が大切!



T先生お疲れ様でした。日々の生徒指導、問題行動への対応、心より感謝します。ぶれる中学生。思春期の洗礼という人もいます。いろんな悩みを抱えながら人は成長します。ましてや中学生というのが一番難しい時期ではないでしょうか。日々の生徒や保護者との関わりを大切にしている先生の姿に脱帽です。

保護者があてにならない家庭もあります。いろんな家庭の事情を抱えた生徒もいます。…だからこそ、この生徒たちにとって学校が必要なのです。未来は親ではなく、この子たちに与えられるのです。

[学年研究授業③]

授業者 : M先生 1年A組 国語

単元名 : 百年後、千年後の友人であるあなたへ 『東海道中膝栗毛』

- 本時の目標 : (1) 歴史的仮名遣いに気づき、現代仮名遣いに直す。
(2) 歴史的仮名遣いの決まりに気づく。

(時間は時刻)

教室がきれい!ロッカーも整然としている。

静かな学級であると、先生方が口々に話す。静かで落ち着いた学級。教師の統制によって押し黙っている学級では決してない。ほんとに落ち着いて整然とした学級である。学級担任の日常が伺える。

教室のフロアもきれい、極端なゴミも見あたらない。なんと言っても後ろ壁面の掲示物やロッカーの整理に安心を感じる。



11:40 淡々と授業に入る。

めあての確認から本時の学習の流れ、既習事項の確認である。教師が話し生徒はうなずく対話になる。



「生徒から発信へ」
生徒に語りかけ教師がうなずく。

11:50 ペアでの音読を指示。

生徒たちは、渡されたプリントの歴史的仮名遣いにつまずきながらも楽しそうに読み合っている。写真⑤の両者の関係がとってもいい、読みながら躓く男子に女子が優しく教えているところである。男子の素直に聴き入れている姿に感心と安心を感じる。



写真⑤

11:58 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。→ グループへ

まずは、各自テキストに向かい合う。黙々とやる。やがて、グループの仲間とほぼほぼ「訊き合い」が発生する。静かに「対話」が交わされる。

「これでいい?」「あってる?」「なんで」

一人残らずすべての生徒が同じ方向を向いて進んでいる「分かりたい」の追求である。投げ出したり、あきらめる生徒が一人も見あたらない。



12:05 現代仮名遣いに訂正された文を、役割を決めてペアで音読する。読み合いながらも、訂正している生徒が多発する。「読む」という行為からの「学び」である。

12:08 CDを聴く。自分のワークシートをにらみつけながら集中して聴いている。→ 訂正する。

▲ 一つ一つの作業の時間が短い気がした。取り残されて後から、追いかけて書き上げる生徒が多数見られた。設定時間も大切だが、生徒の状況を「見取る」授業者の眼を信じたい。

12:25 まとめ。本日の授業で一番素晴らしい場面である。

授業者は本時の学習を活用して解く問題を準備した。「『斎藤光栄』を歴史的仮名遣いで書きなさい。」である。

授業者の本時のまとめの設定に大いに感心した。

本時の学びをどう活用するか?活用できて初めて意味を成すのが学力である。

生徒は、皆必死で解答していた。分からなければ「訊き合い」やり終わったら仲間との確認である。



【 微妙な学び 】

さて、下の二人の行為どう見ますか? なかなか、言葉で依存できない生徒は多々いる。しかし、彼らにとって「分かりたい」という行為であるならば、それは「まねび」という「学び」である。「分かりたい」を認めてあげたい。



M先生。お疲れさんでした。そろそろ国頭中や「学び合う学び」の授業には慣れてきましたか? じっくりしたすてきな授業でした。ちょっと先生の説明や確認の言葉が多いのが気になりますが、ほちほち慣れていってください。ゆっくりでいいです。肝心なのは教師が「あきらめない」ことです。

国頭学びの会ゆい